

男女共修の

家庭科をのぞいてみよう!



〈富士宮保健センターでの実習、思春期体験学習〉

「私も親にこうやってかわいがられたんだろうな」

「赤ちゃんって嫌いだったけど好きになった」

「子どもが生まれたら僕も面倒見るよ。当然」

「きたないかと、思っていたけど、とってもかわいい!」

「赤ちゃんといると優しい気持ちになるね」

「泣きやまないとホント困っちゃう。赤ちゃんを育てるのは大変そう…」

「俺、赤ちゃん好きだよかわいいじゃん」

「こわそうてこわいな…」

平成6年度から高校家庭科は男女共修になりました。次代を担う高校生たちはこの教科から何を学び、どう変わっているのでしょうか。平成4年度、女子校から男女共学への移行と同時に、一足早く家庭科の男女共修を始めた富士宮東高校の家庭科の授業を拝見。二年生のあるクラスは、富士宮市保健センターの思春期体験学習へ、別のクラスは、富士宮市立小泉保育園へ実習に行きました。



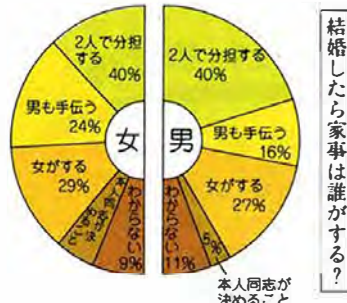
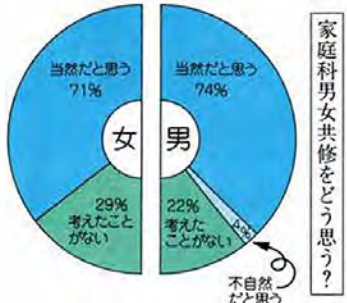
富士宮市保健センター 保健婦 ながわ れいこ 中川 礼以子 さん

保健センターと学校教育との タイアップを実現

「思春期体験学習事業」が始まって2年、これまでに460人の高校生が赤ちゃんに触れあった。「赤ちゃんに接する時は、どの生徒も本当に良い面を見せてくれるんです。一見、突っ張っているような子は特に変わりますよ」この事業の企画者であり、担当者でもある中川さんはそう話す。赤ちゃんをいとおしむだけでなく、自分と親との関わり方を見つめ直して感謝したり、こういう親になりたいと自分の未来像を描く生徒もいる。言葉では伝え切れない様々な大事なことを、赤ちゃんに接することによって生徒自身が感じ取ってくれる。

母子保健事業を担当していた中川さんは、学校側との思いが重なり合った平成6年、かねてから思い描いていたことを実現させるチャンスは今だ、と試行的に事業の実施にふみ切ったそうだ。そして平成7年、新しく富士宮市保健センターができてからは、施設面においても一層の充実がはかられた。「富士宮市でも10代の妊娠が年々増加しています。親になる準備もないまま出産するケースなどを目にすることもあり。そうした状況の中で強く感じていたことは、子供を生んでからでなく、それ以前の思春期の時期に、命の大切さ、いとおしさを実感してほ

高校生の「ほん・ね」



〈家庭科について〉

- 自分の生活を見直すようになった。(男・女)
- 教科書だけでは学べないことを学べたと思う。(女)
- 調理は好きだけれど、住居や衣服は苦手。(男・女)
- 他の授業と違って普段の生活のことだから真剣だよ。(男)
- 関わる機会のない障害者や老人の介護、保育の大切さがわかったし、興味があった。(男・女)

〈性別役割分業について〉

- 男の家事はサポート程度、女の仕事はパート程度がいい。(男)
- 家事と仕事を両立させるのは大変だし、女ばかり割りを食うのは嫌だ。役割は分担したい。(女)
- 好きで女に生まれてきたわけじゃないのに、女だから仕事は二の次だなんて許せない。(女)
- 男も女も家庭を大切にして、家事、育児、介護は二人でする。僕は育児休暇を取る。(男)
- 男・女に関係なく仕事をすればいい、家事はどっちがやってもいいはず。(男・女)
- 家事は女がするのが当たり前、できて当然みたいな考え方はやめたほうがいい。(女)
- 家族全員が基本的習慣としてできることをやるべき。女性にも自由な時間が必要。(女)

富士宮東高校 家庭科

なかのゆきえ たかぎ
中野幸枝・高木ゆかり両先生のお話

本校で家庭科男女共修が始まって4年になります。今の高校生の価値観は、時代の流れの中で急速に変わってきていると感じます。男女の性別役割分業観というの、大人が想像する以上に無くなっているように思います。3年間の限られた時間の中で家庭科という教科を通してできることは、性差を越えて人間としてどう生き、どういう価値観を選んでいくのかを考える土台を作ることだと思っています。家庭科の目的は、人が生きることにかかわる問題を、実体験を通して学び、自分や自分を取り巻く社会の問題としてとらえ直し、具体化していく力を育てることです。多様な生き方や、考え方を提示していくことで、どういう人生を選ぶかを長いライフサイクルの中で考えさせていきたいと思っています。

(中野T)

家庭の中でだんらん大切さは理解されていますが、現代のように職住分離が進み、家族関係が稀薄化してくると、だんらんでなく家事も大切な家族の共有時間となります。家事を分かち合うと同時に、女性も働いて仕事の厳しさを知る。楽しいことだけでなく、大変な部分もお互いに共有していくことによって、会話が生まれ家族への理解が深まります。

問題を共有するという意味で、中絶のビデオも、男女一緒に見せることで、お互いを大切にすることや命についての考えを深めるきっかけになります。

多くの生徒が、老後は夫婦二人で暮らしたいと望んでいますが、年をとるまでの夫婦の在り方や、男性の家事能力が問われます。まだ、家庭のことに対して男子はサポート的な存在だと考える生徒も多いので、男女が同じラインに立って考えるところまで引っ張っていきたいと思っています。

(高木T)



〈小泉保育園にて〉

新しい家庭観を求めて

家庭を考える県民フォーラムから

● 去る12月9日、「あざれあ」で「親子・夫婦のパートナーシップ再考」をテーマに、県民フォーラムが行なわれました。めまぐるしく変動する社会の中の、最も小さな単位である「家族」の在り方が揺らぎ始めています。これからの家族はどうあったらいいのか、コーディネーターと4人のパネリストを迎え、1000人の参加者が活発に話し合いました。

「なぜ新しい家庭観が必要なのか」参加された方々の様々なご意見の一部をここに紹介します。さて、あなたはどんな家庭観をお持ちですか？

やりたい事はやる

(パネリスト) 久美子 さん
(公募) 山本 さん



今までは伝統的な良き妻、良き母として生きてきました。しかし、同じような立場の人が、16日間の海外派遣事業に参加したと聞いて、頭をガチンと殴られたような気がしました。そして、私も行こうと決意しました。家族を説得して、3人の子どもに家事を覚えさせるなど、準備は大変でしたが、行って本当に良かった。自分のためだけでなく家族の自立のためにも、良妻賢母たらんと自分を枠にはめて我慢しているより、やりたい事をどんどんやったほうが良いと思います。今、私は将来、地域に役立つ仕事が出来ればと勉強をしています。

自分なりの

新しいことを見つけよう

(パネリスト) カレン ヒル アントンさん



女性は男性と競争するとか、男性のやっていたことを真似しようとするのではなくて、女性を持っている大事な力を生かし、自分なりの新しいことや新しい道を見つけることが大事だと思います。

会場から「ハイ！」

● 私の娘は仕事の関係で、夫婦別々に家を借りています。4歳になる孫は保育園を終えると、好きな方の家に帰ります。娘の夫は家事も育児も完璧です。夫婦別姓ですし、これが新しい家族というのでしょうか。これからどういいう家庭を作っていくのか楽しみにしています。(女)

● 男にとって辛い嫌な時代になったというのが本音です。男は男らしく、女は女らしくと思えます。女があんまり自立すると、女らしい情愛がなくなるといふか味気ない気がします。(男)



自分達ならではの "家族"を作り上げる時代



コーディネーター
しおみとしゆき
汐見稔幸さん
東京大学教育学部助教授

女性の社会進出が当たり前になってきたわりには、家事・育児は相変わらず女性の負担となっています。これからの日本の家族は、パートナーである夫が、家事・育児をどこまで当然のこととしてやれるかにかかっている気がします。しかし、まだまだ長時間労働を強いられるお父さんに、「家事も育児もやってください、父親でしょ」という言い方は得策ではありません。「家事・育児は実にやりがいのあること。これができないのは一生の損で、権利を奪われているのだよお父さん」という迫り方をしていく必要がある。そのために家庭文化をもっと豊かにしていく必要がある。そしてお父さんを縛っている社会体制に対しても声を上げていくべきだと思います。

また、長寿社会になり、夫婦生活も60年時代を迎えました。この60年近い夫婦生活を上手に作り上げていくのは、実は大変難しいことで、夫婦と言えども、お互い違う世界を持って生活していますから、放っておいたら話題の共通性がなくなってしまいます。努めて夫婦の共有時間を持ち、お互いの良さを発見し合う関係を続けることが大切になってきました。

私が一つ到達した結論は「自分がやりたいと思ったことは妻もやりたいと思って当然、自分がやりたくないことは妻もやりたくないと思って当然」ということです。家族というのは、それぞれの人生を支え合い、応援し合う共同体なんだと思います。

現代は、それぞれの家族が工夫し、一つの作品として、「自分達の家族」を作り上げる時代。固定観念に縛られては、この変化の激しい世の中では生きにくい。多様な生き方、家族のあり方をお互い認め合える社会にしていくことが必要だと思います。

離れていても家族の 心はひとつ

(公募パネリスト) 長谷 友栄さん



我家は4人家族ですが、父は富山、母は仕事の関係で東京、私と妹は学生で、静岡、倉敷といた頃は、けんかして家族なんか嫌だと思っただけもありましたが、今、離れてみて、家族の良さ、有難さを実感しています。50歳になって、したい仕事のために一人住まいを始めた母を偉いと思いますし、それを認めた父も偉いと思っています。人生は求めていればそのようになっていくのだという見本を母が示してくれました。それぞれの生活を尊重しあい、励まし合っていて、それぞれが一生懸命生きることを支えるのが家族なんだと実感しています。

柔軟にバランスの とれた関係づくり

(パネリスト) ウイリアム アントンさん



小さい頃からの教育の中で、私には、「男はこうあるべき、女はこうあるべき」という固定観念がありました。しかし、そういう型にはまった考え方は、実際の生活を営む上で、私にとって次第に邪魔になってきました。家族と1年以上かけて25か国以上回った時も、家族がバランスよくお互いに協力し合いました。そうした経験を通し、家族のあり方を柔軟に考える必要性を感じるようになりました。家族は、コミュニケーションを十分にとって、バランスよく、自分たちにあった生き方ができればいいと思います。

● 女性は自分の能力を発揮できる場所ができてくると思うのですが、男性の方は皆と全然変わってないんですね。女性は今当たり前自立をして、男と女の能力差はないということを証明しつつあるのだけれど、それに男性の考えが追いついていかないというふうに思います。(女)

● 自立はいいがそのために家族が崩壊するとか、家族のまとまりがなくなるとかいったマイナス面をどう考えるか。(男)

● 近所に夫と子どもを置いて、外国にボランティアに行った奥さんがいます。みんな何って言うてるかという、まず自分の家庭をボランティアしろと笑っています。(男)

● 自立というのを、自分勝手な事をするのと取り違えている人がいると思う。(女)

● 妻が夫を援助すると同じように、女が自分の人生を歩みたい時にやはりパートナーとして夫に応援して欲しいと思います。ちなみに私は夫や家族の応援があつて今の仕事があることを感謝しています。(女)

● 社会や家族を背負わなければと、一人気負っていました。男も女も助け合って行こうよというの、かえって男にとって楽になつたと思います。(男)

● これからはもっと家事に参加しようと思いません。(男)

● 男の子にも台所で楽しくやれる事を一緒にやっていきたい。(女)

● 家族の一人一人が人間として尊重され生きよう、お互いを認め、何でも言い合える関係でいたい。まず自分が変わらなければ。(女)

行動するための

お役立て情報

相談窓口

行動しようと思ったらまずは情報収集。静岡県内の相談窓口をチェックしてみました。

- ✦ イベント情報 054-272-8844 イベント・コンサート等の文化情報
静岡県文化財団 静岡市追手町9-6県庁文化事業課内
- ✦ ボランティア情報 054-255-7357 ボランティア活動、団体等の情報や相談
県ボランティア情報 静岡市駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館内
- ✦ 学習情報 0537-24-3757 学習機会、資料等の相談提供
生涯学習情報コーナー 掛川市富部456 県総合教育センター内
- ✦ 働く女性 0559-20-2182 就業相談、指導、情報提供、講習会案内
東部就業女性センター 沼津市高島本町1-3 東部総合庁舎
「働く女性ダイヤル（電話相談）」 0559-20-2047
- ✦ 働く女性 054-286-9250 就業相談、指導、情報提供、講習会案内
中部就業女性センター 静岡市有明町2-20 静岡総合庁舎
「働く女性ダイヤル（電話相談）」 054-251-0047
- ✦ 働く女性 053-458-7245 就業相談、指導、情報提供、講習会案内
西部就業女性センター 浜松市東田町87 浜松総合庁舎
「働く女性ダイヤル（電話相談）」 053-454-0047
- ✦ 女性のための電話相談「あざれあ」
東部地区 0559-25-7879 中部地区 054-272-7879
西部地区 053-456-7879

助成団体紹介

女性の地位向上のために地域活動や学術研究等をしている人を対象に、助成を行っている団体があります。今回はそうした助成団体の中から、2団体を紹介します。

- エイボン女性文化センター エイボン・グループ・サポート
内容・対象 ボランティア精神に根ざし、女性の発想と視点を生かして学術研究、社会福祉、教育スポーツなど様々な分野を開拓し、会員相互が協力して積極的に地道な活動を展開する女性グループを助成。
問合せ先 ☎0425-27-1650
- 財団法人 市川房枝記念会 市川房枝基金
内容・対象 女性の地位向上、政治の浄化、国際協力などのための、個人および団体の研究調査、活動で、社会に役立つものに対する助成。対象は原則として女性。
問合せ先 ☎03-3370-0238

(民間助成金ガイド助成団体要覧からの転載です。)

参考資料等

- 「女のグループ活動資金づくりの本」(財)横浜市女性協会編 学陽書房
- 「民間助成金ガイド助成団体要覧」(財)助成財団資料センター編 第一法規出版株式会社